

「無知ゆえに」

記入者:寛治



昨日、レコーディングのためラプタの家に行った際、ラプタジュニアを喜ばすため、飼っているヘビを持って行った。

以前からジュニアの長男が「今もヘビ元気？」と聞いてきたからである。ラプタのスタジオに入ると元気よくラプタジュニアの二人が飛び込んできた。さっそくカバンからヘビを取り出して長男の首にかけてやると、長男は硬直した。

あれ？

長男が3歳くらいの時は平気で触っていたのに、6歳になった今、完全にビビって動けなくなっている。

これは“ヘビが危険だ”という知識を身につけたからである。

逆に3歳の次男の方は、ヘビを首にかけても全く動じない。むしろヘビの顔を掴んで口をこじ開けようとしていた。

さすがの俺もこれにはヒヤヒヤした。

知識をつけて動けなくなった長男と、無知ゆえに怖気づかない次男

知識をつけることは良いとされてきたが、次男を見ていると“知らない”ということは人の可能性や行動力をグッと上げるのかもと思った。



ヒロポジドッグを見ているともそう思うことがある。

何年か前のチャクラダイナミクスイベントで作曲家のsoejima takumaを呼んだことがある。

当時、soejima君は【俳句コア】という新しいジャンルの音楽を広げようとしていた。

俳句コアとは、30秒から1分の「音」のうえで「句」を詠むという至極シンプルなものだった。

その俳句コアに「寛治君も参加してよ」と嬉しい誘いがあった。

イベントの前日にチャクラや演者の皆で前夜祭をした後、二次会としてDJの家でも何人かで飲んでた。

そこでsoejima君から俳句コアの話が出たのである。

soejima君は、俳句コアのルールの上でなら何をやってくれてもいい！むしろ俳句を詠まなくてもいいし、最悪ルールなんて無視してくれてもいい！それくらいの自由な発想でやって爆発的な化学反応みたいなことが起こしたい！と熱く語っていた。

そこに居たチャクラメンバーや演者の皆も、彼の新しいものを生み出したいというエネルギーに反応し、めちゃくちゃ盛り上がった。

soejima君すごいよ！ワクワクするよ！ただ単に音楽の上で俳句を詠むんじゃなくて、新しいジャンルとして確立するよう化学反応を引き起こしてやるよ！！！！！！

酒の勢いもあって盛り上がりは最高潮に達した時

ヒロポジドッグ「すみません、俳句ってなんですか？」

衝撃の一言が飛び込んできた

いや！俳句や俳句！小学校でも習ったやろ！と一同腹を抱えて笑った

しかし、soejima君だけは反応が違った

soejima「深い！！！！！！それは凄い深いですよ！！！！！！」

純粋に俳句が何なのか知らないヒロポジドッグの一言にsoejima君は感銘を受けていた

そもそも俳句とは何なのか？何故生まれたのか？

俳句そのものの存在を正確に答えることが出来る人なんて存在するのか？そんなことを言って興奮していた。

soejima「寛治さん！さっきのヒロポジドッグさんの発言録って僕に送ってください！」

結局、ヒロポジドッグは俳句が何なのか知らないまま後日、俺の家で「俳句ってなんですか？」という発言を録音した。(なんやねんこれ)

そして、その年の元旦に『basyo compi vol.2 ~新春俳句コア~』というものがリリースされた。

かなり濃い面々が参加した全18句のこのアルバムの最後の締めくくりに、エンディングテーマとしてsoejima君編曲によるヒロポジドッグの【俳句ってなんですか？】が収録されている。

「俳句ってなんですか？はい♪はい♪俳句ってなんですか？はい♪はい♪」

アルバムを通して聴いても最後に全てかささらっていくぐらい、ヒロポジドッグのエンディングはよかった。

本当に俳句のことを知らない感じが出ているし(本当に知らんのやけど)、これぞヒロポジドッグという仕上がりである。

当時、このアルバムは色んなところで取り上げられ、アルバムをレビューしているサイト等でも『俳句とは何か？と最後に問いかけてレーベルの軽妙さを表現する。この終わり方は爽快だ。』や『ヒロポジドッグの「俳句ってなんですか？」は吉村元年の「ブーティってなんですか？」へのオマージュと見た！』とか書かれて話題になっていた。

今でも検索するとこのアルバムはbandcampから無料でダウンロードできるので是非とも聴いてほしい。

“知らない”は最強である。